#332

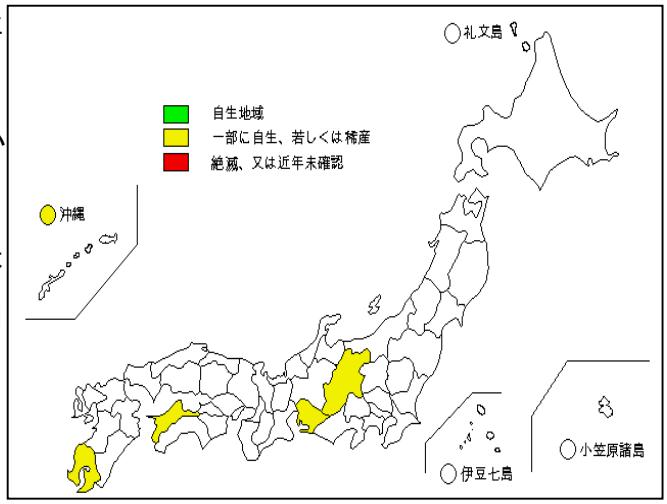
ヤクシマヒメアリドオシラン

絶滅危惧1B類(EN)

Vexillabium yakushimense

ヤクシマヒメアリドオシラン(愛知県奥三河　09.8/1)

屋久島及び愛媛県の一部、長野県の一部に隔離的に自生する小型の地生蘭です。ハクウンラン属で、草姿はハクウンランに酷似しますが花弁に大きな切れ込みが入り2枚舌になっていることから花が確認できれば容易に判別できます。草丈は花茎を合わせても50mm程度で、8月頃に白い小さな花を2～3輪咲かせます。深山の杉やモミなどの針葉樹林で腐葉土が積もり常に湿っているような薄暗い環境を好み、当地中部地方ではコアツモリソウやキンセイラン、ナツエビネ、アオフタバランなどと混生しておりました。愛知では未だ確認されていない蘭で、長野南部の自生地は知られていることから、念入りな調査を行えば、岐阜や山梨、静岡で発見されても不思議ではありません。但し、非常に目立たずラン科としての特徴(太い根など)は見当たらず、また群生はしていないため発見は非常に困難です。



暖地を中心に隔離的に分布します。

ヤクシマヒメアリドオシラン(愛知県奥三河09.07/3)

花が小さく観賞価値も低く商用生産もされていないため入手は事実上不可能です。個体数も限られ増殖率も悪く、また小型で体力がなく環境の変化にも弱いため栽培も困難です。本種は盗掘以前に発見される前に貴重な自生地が無計画な伐採や林道整備、宅地化などにより消失していることが絶滅危惧要因であると考えられます。ゆえに、緊急避難的な個体維持策、及び最終手段としての人為的な増殖目的以外での栽培は何卒お控え願います。　近縁種のハクウンランやオオハクウンラン、アリドオシランは個体数は本種に比べれば圧倒的に多いですが、ハクウンラン属はいづれも上記のような危うい状況に置かれている為、興味本位での栽培はお控え下さい。

09.8/16作成

Document and photo by LittleFlower 2009